

2026年3月大阪市立小・中学校(約410校)卒業式 学校HPでの「卒業証書授与式」使用は12校

D-TaC 松田 幹雄

◆『「卒業証書授与式」使用には問題がある』との認識広がる

D-TaC は、松田「君が代」調教 NO！裁判最終後、新たな運動の出発点となった2024年6月13日総会翌日に、大阪市教委に質問書を提出しました。以降、私たちは『「卒業証書授与式」の使用は不適切』と訴えてきました。根拠は以下です。

(1)文科省や大阪市教委の公文書には、「卒業式」のことばしかなく「卒業証書授与式」のことばはないこと

(2)卒業式は卒業生が主人公であるべきで、校長・学校・国が主体であるかのような名称「卒業証書授与式」はふさわしくないこと

(3)歴史的に見ても、「卒業証書授与式」という呼び方は明治から大正期の呼び方であり、戦前でも昭和期には「入学式」「卒業式」の名前が定着しており、根拠がないこと

私たちが訴えるまで、「卒業証書授与式」が正式名称であるとか、自分の学校はずっと「卒業証書授与式」を使用してきたなどという誤った認識が学校現場にありました。私たちは、大阪市教委への要請や協議で市教委の認識をただすとともに、各学校に要請メールを送って『「卒業証書授与式」を使用しないで』と訴えました。結果は、2025年3月の卒業式の学校HP報告記事に「卒業証書授与式」を使った学校は中学校32校(約130校中)、小学校6校(約280校中)でした。前年度から比べると激減といえる状況でした。私たちは、「卒業証書授与式」使用校には、使用理由を問う活動を行いました。また、2026年3月卒業式に向けては、改めて、要請メールを送り

ました。そうした中で、2026年3月卒業式について、現在、学校ホームページに「卒業証書授与式」を使っている学校は、中学校5校、小学校7校です。大阪市立小・中学校においては、『「卒業証書授与式」使用には問題がある』との認識が広がってきたといえる状況です。

根拠がないのに学校現場に広がっていた「卒業証書授与式」。「卒業式は厳粛に」「戦前の学校が手本」と考えるような人たちによって意図的に学校現場に持ち込まれていたのではないのでしょうか。

私たちが訴えることで、現実を1つ変えることができたという経験は、『子どもの権利条約に沿った卒業式、「君が代」指導を』と呼びかける私たちの運動に確信を与えてくれるものでした。

◆府立学校、府内市町村の小中学校にも「卒業証書授与式」不適切の認識を広げたい

「日の丸・君が代」強制反対大阪ネットは、大阪府教委との今年1月19日の交渉で、『府教育委員会から発出した卒業式に係る文書に「卒業証書授与式」という記載はない』との回答を得ました。それで、例年行っている府立高校での「卒業おめでとう」門前ビラまきの際、いくつかの学校に「なぜ、公文書にない「卒業証書授与式」の名称をあえて使用しているのか」と問う質問書を渡す活動を行いました。今後、「卒業証書授与式」使用には根拠がなく、ふさわしくないとの認識を府内の教育委員会、各学校に広げていきたいと思えます。

今年度は「日の丸」壇上正面掲揚指示には根拠がないと訴えていきたいと思っています。